

研究主題「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくり –各教科等における見方・考え方を働かせて–」

この単元と関連した領域の付いている力(◆)と内容(・)
 [第1・2学年] 地域の場所やそこで生活したり働いたりしている人々について考えたり、自分たちの生活は様々な人と場所と関わっていることを理解すること。(生活科)
 [第3学年] ◆生産の仕事は、地域の人々との生活と密接な関わりがあることや販売の仕事は消費者の多様な願いを踏まえて売り上げを高めるよう工夫して行われていることを理解すること。
 ◆見学したり調査したり地図などの資料で調べたりして、白地図などにまとめること。
 ◆仕事の種類や産地の分布、仕事の工程などに着目して、生産に携わっている人々の仕事の様子を捉え、地域の人々の生活との関連を考え文章で記述したり、説明したりすること。
 ・スーパーマーケット、工場の仕事
 [第4学年] ◆県内の特色ある地域では、人々が協力し、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めていることを理解すること。
 ◆地図帳や各種資料で調べ、白地図などにまとめること。
 ◆特色のある地域の位置や自然環境、人々の活動や産業の歴史的背景、人々の協力関係などに着目して、地域の様子を捉え、それらの特色を考え文章で記述したり、説明したりすること。
 ・地場産業 ・地域資源 ・国際交流

本単元の目標

学びに向かう力、人間性等

日本の食料生産の概要や食料生産が国民に果たす役割について主体的に問題解決しようとしたり、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとしたりする。
 多角的な思考や理解を通して、我が国の産業の発展を願い我が国の将来を担う国民としての自覚をもつこと。

単元終了時のめざす児童の姿

- 米の生産は、国民生活を支える重要な役割をしていることや生産に関わる人々の工夫や努力によって、国民生活が支えられていることを理解している。
- 米づくりの農業の発展について、生産者や消費者等の立場で多角的に考え、様々な資料等をもとに自分の考えを説明したり、自分の考えをまとめたりすることができる。

知識及び技能

- (ア) 我が国の食料生産は、自然条件を生かして営まれていることや、国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることを理解すること。
 (イ) 食料生産に関わる人々は、生産性や品質を高めるよう努力したり輸送方法や販売方法を工夫したりして、良質な食料を消費地に届けるなど、食料生産を支えていることを理解すること。
 (ウ) 地図帳や各種の資料で調べ、まとめること。

思考力・判断力・表現力等

- (ア) 生産物の種類や分布、生産量の変化、輸入など外国との関わりなどに着目して、食料生産の概要を捉え、食料生産が国民生活に果たす役割を考え、表現すること。
 (イ) 生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、食料生産に関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考え、表現すること。

この単元からつながっている領域の付けたい力(◆)と内容(・)

- [中学校] 地理的分野 日本の特色と地域区分
 ◆日本の資源・エネルギー利用の現状、国内の産業の動向、環境やエネルギーに関する課題などを基に、日本の資源・エネルギーと産業に関する特色を理解すること。
 ◆自然環境、人口、資源・エネルギーと産業、交通・通信について、多面的・多角的に考察し、表現すること。
 ◆日本の地域的特色を自然環境、人口、資源・エネルギーと産業、交通・通信に基づく地域区分などに着目して、それらを関連付けて多面的・多角的に考察し、表現すること。

他教科等との関連

- 家庭科「食べて元気！ご飯とみそ汁」 ・理科「植物の発芽と成長」「天気」
- 国語科「事実と考えを区別しよう」

主体的・協働的な学習活動

課題把握:動機付け/方向付け → 課題追究:情報収集/考察 → 課題解決:構想/まとめ・振り返り

単元を貫く問い **これからの日本の米づくりを続けていくには、どうしていけばよいのだろう**

問い 販売者 JA の方の願いを実現するためにわたしたちにどのようなことができるだろう。

- 米づくりの現状や課題を知り、米の販売者 JA の方の依頼を通して学習問題をつくる。(1時間)【知①】
- ・3年生のスーパーマーケットの学習を想起し、様々な産地から食料が届けられ、それによってわたしたちが生活していることを理解する。
- ・国民一人当たりの主な消費量(1年間)の変化やその理由を考える。
- ・販売者 JA の方の依頼を受けて、学習問題をつくる。

問い 学習問題の解決に向けて、どのような学習が必要だろう。

- 学習問題に向けて必要な学習を考え、話し合う。(1時間)【主①】
- ・JA の方から依頼されたチラシを作るために、自分たちの必要な学習を考える。

米はどうやって作られるのか。
 米づくりでは、どんな工夫をしているのか。
 どんな思いで米づくりをしているのか。
 お客さんは、米をどうやって、買っているのか。
 米を買ってもらう工夫はないか。

問い 米づくりは、どのように行われているのだろう。

- 自分たちの地域や米の生産量が多い地域を比較しながら、米づくりと自然条件との関係を調べる。(1時間)【知②】
- ・米づくりが行われる高知県の主な地域や日本の統計による生産量が多い主な産地を比較しながら、米づくりと地形や気候との関係を調べる。
- 一年間の米づくりの工程や心がけていることを調べる。(2時間)【知①思①】
- ・米づくりの作業の流れを時期と関係付け、米づくりを行う上で、心がけていることや工夫について調べる。
- 品種改良や耕地整理、農業機械の導入による変化をもとに生産に関わる人々の工夫や努力について調べる。(2時間)【知②思①】
- ・昔と今の米づくりの様子を比較しながら、米づくりの変化や生産に関わる人々の工夫や努力を捉える。

問い 米は、どのようにしてわたしたちのもとへ届けられるのだろう。

- 米が生産地から消費者のもとへ届けられる過程と輸送手段、かかる費用、消費者のニーズによる購入の仕方について自分たちの家庭と比較しながら調べる。(2時間)【知①思①】
- ・米が消費者へ届けられる過程の中で、様々な人々に支えられていることや費用が必要であることを理解する。
- ・米の購入の仕方やどのような米を求めて購入するのか、家庭での聞き取り等をもとに消費者のニーズを考える。

問い 米の生産を持続するために、どのような取り組みが必要だろう。

- 米づくりの課題に対する生産に関わる人々の取り組み、工夫や努力を調べ、これからの米づくりの発展について考える。(2時間)【知②思②主②】
- ・米づくりの生産の持続に向けた取り組み、工夫や努力を通して、生産に関わる人々の思いや願いを考える。
- ・消費者や生産者などの立場から、持続していくためのこれからの米づくりについて、自分の考えをまとめる。

問い これまでの学習や自分の考えをもとにどのようなチラシを作ったらよいのだろう。

- これまで学習してきたことや自分の考えを踏まえてチラシを作る。(2時間)【主②】
- ・これまでの学習と自分の考えをもとに、チラシに載せる内容を考え、話し合う。<本時1/2>
- ・チラシを作り、学習の振り返りをする。

これまでの学習で、農薬をまく回数を減らし、化学肥料を使わない方法など安心・安全な米を目指してお米を作っていることが分かった。また、買う人もおいしくて安全なお米を買いたいと思っているから、チラシには、その工夫を載せて、「安心・安全」なお米と伝えられるものにしたい。

働かせている児童の姿

見方・考え方を働かせている児童の姿

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①生産物の種類や分布、生産量の変化、輸入など外国との関わりや生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などについて、地図帳や各種資料で調べて、必要な情報を集め、読み取り、食料生産の概要やそれに関わる人々の工夫や努力を理解している。 ②調べたことを図や文などにまとめ、我が国の食料生産は、自然条件を生かして営まれていることや国民の食料を確保する重要な役割を果たしていること、また食料生産に関わる人々は生産性や品質を高めるよう努力したり輸送方法や販売方法を工夫したりして、良質な食料を消費地に届けるなど、食料生産を支えていることを理解している。	①生産物の種類や分布、生産量の変化、輸入など外国との関わりや生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、問いを見だし、食料生産の概要やそれに関わる人々の工夫や努力について考え表現している。 ②食料生産と国民生活を比較して食料生産が国民生活に果たす役割や食料生産に関わる人々の働きを考えたり、学習したことを基に社会への関わり方を選択・判断したりして適切に表現している。	①我が国の米づくりにおける食料生産について、予想や学習計画を立て学習を振り返ったり、見直したりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。 ②学習したことを基に消費者、生産者、販売者などの立場から、これからの米づくりの発展について考えようとしている。

児童の実態と指導観

児童は、3年生において地域に見られる生産や販売の仕事は、地域の人々の生活と密接に関わっていることや消費者の願いを踏まえて売り上げを高めるよう工夫していることを学習してきた。また、4年生では、県内の特色ある地域において、人々が協力し特色ある地域の位置や自然環境などを生かした特色あるまちづくりや産業の発展に努めていることを学習している。そのため、身近な自分たちの生活は、様々な人との関わりやその人々による工夫や努力によって支えられていることをこれまでの知識としてもっている。これまでの社会科の学習においては、学習問題について地図、写真やグラフなどの様々な資料から必要な情報を読み取ったり、選んだりしながら解決に向けて取り組んでいるが、複数の資料を関連づけたり、調べたことをもとに自分の考えを資料をつかって説明したりすることに弱さが見られる。そのため、地図帳や様々な資料をもとに米づくりの現状やそれに携わる生産者の工夫や努力に対する自分の考えを説明できるとともに、日本の米づくりの課題を自分たちの身近につながる問題として捉えさせ、これからの農業について考え、自分で選択したり、判断したりする力を身に付けさせたい。

【本時の目標】 米を販売するチラシに載せる内容について、これまでの学習を踏まえた自分の考えを表現することができる。（12/13時間目）
【本時における社会科の見方・考え方】 米づくりの現状や課題に着目し、生産に関わる人々の工夫や努力を踏まえて、これからの米づくりについて多角的に捉え、自分の考えを表現している。

6/22 (木)

JA の方の写真

めあて 米を買ってたくさん食べてもらえるようなチラシにするためには、何をのせたらいいだろう。理由や根拠を示しながら、決定しよう。

1 班
生産者の工夫

2 班
米のよさ

3 班
コシヒカリの特徴

4 班
生産者の工夫

5 班
農薬を減らす工夫

6 班
四万十川の水を使った米

米のおいしさ

生産者の努力

生産者の思い

米の特徴

生産者の思い

米の特徴

生産者の思い

品種

生産者の工夫

安全・安心

米のおいしさ

生産者の思い

理由や根拠
 ・生産者は、農薬や化学肥料を減らして安心・安全な米をつくっている。消費者も安全なお米を求めているのでその工夫をのせたら買ってもらえると思うから。
 ・品種で米を買っている消費者もいるので、チラシに品種をのせると買ってもらえると思うから。
 ・消費者は、おいしい米を求めているから、生産者が時間をかけ工夫して、質の高い米を作っていることをのせると買ってもらえると思うから。

振り返り

◎主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習過程の工夫
 導入時の JA の方のお願いであるチラシづくりに向けて、記載する内容を個人で考えたり、グループ（全体）の中で話し合わせたりしながら記載する内容を決定していく。記載する内容の数を限定することにより、チラシに記載する内容をこれまでの学習から取捨選択したり、根拠や理由を示したりする必要感が生まれ、対話を通して自分の考えを表現していくことにつながると考える。
◎教科の見方・考え方を働かせて課題解決させる手立て
 これまで学習してきた学びの足跡の掲示や生産者、消費者、販売者の立場で多角的に考えてきたことなどを振り返るとともに、話し合いの中で、一つの立場のみの視点にならないように、それぞれの立場をもとにした考えになっているのか適宜、助言しながらチラシに掲載する内容を考えさせるようにする。

米を PR するチラシを作りたい！
 お米のおいしさを知って、日本のお米を食べてもらいたい！



<p>T これまで米づくりについて学んできましたね。米づくりについて新しく知ったことがたくさんあったと思います。</p> <p>T JA さんからの願いは達成できそうですか。どんな目的のチラシだったのか確認してみましょう。</p> <p>C 米を食べる人が減ってきて、米があまり売れないので 5 年生に力を貸してほしいということでした。</p> <p>C 日本のお米をたくさん食べてほしいので、お米を PR するチラシを作りたいということでした。</p> <p>T いよいよ今日は、JA さんの願いに答えられるようチラシを作りたいと思います。でも、これまで学習してきたことを全部載せられますか？</p> <p>C 全部は難しいかもしれない。いくつか選んだらどうか。</p> <p>C 米のおいしさやよさが伝わるようなものを載せたらいいんじゃないかな。</p> <p>T 今日は、そこをどうしたらいいか考えてほしいと思います。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> めあて 米を買って、たくさん食べてもらえるようなチラシにするために、何を載せたらいいだろう。理由や根拠を示しながら、決定しよう。 </div>	<p>T チラシは、班で作ってもらおうと思っています。みんなの載せたいものがそれぞれ違うと思うけど、まず、これまでの学習を思い出しながら、自分がこれは絶対必要と思うものを 2 つ考えてみましょう。</p> <p>(個人)</p> <p>T 2 つ考えたものをこの付箋に書きましょう。なぜ、それを選んだのか理由や根拠を言えるようにしましょう。</p> <p>C 米がどのように作られるのか入れたらどうか。</p> <p>C 生産者の思いを載せると、消費者に伝わるんじゃないかな。</p> <p>T 2 つ選びましたか？それでは、チラシに載せるものをどれにするか班で考えていきましょう。</p> <p>C 生産者の工夫 C 生産者の思い C 米のよさ・おいしさ</p> <p>T チラシに載せるのは、3 つにしたいと思います。班で話し合いながら 3 つに絞っていきましょう。決まったら、その 3 つを短冊に書いてください。</p> <p>(グループ)</p> <p>C 米の特徴を載せたらいいと思う。理由は、どんな種類なのか、どんなお米なのか伝えることが大事じゃないかな。</p> <p>C 米の特徴を載せるのは、私もいいと思う。買う人もどんなお米なのか知りたいと思うから。</p> <p>C 化学肥料を使わなかったり、合鴨を使って、農薬をまかない工夫を載せたいと思う。生産者は安心で、安全な米を作っていて、その米を食べてもらいたいと思っているよ。</p> <p>C おいしい米を食べてもらいたいという生産者の思いを載せたいと思う。長い期間をかけて米づくりをしたりしているので、思いや願いが伝わると、消費者は買ってくれると思う。</p>	<p>T チラシに載せる内容は、3 つ決まりましたか。黒板に短冊を貼りましょう。</p> <p>T 他の班のものも見て、どんな内容を載せようとしているのかな。</p> <p>C 生産者の思いや工夫を載せようとしている班が多いと思います。</p> <p>T どうして、この内容に決めたのかな。班でどんな意見が出ていましたか。</p> <p>C 生産者の方は、消費者のことを考えながら米づくりをしていることが分かったので、生産者の思いや工夫を載せると消費者に伝わって、お米を食べてもらえると思います。</p> <p>T 消費者のことを考えていることは、どこから分かる？</p> <p>C 農薬をできるだけまかないようにして、安心・安全な米づくりをしていました。</p> <p>T 今の班からは、生産者のこと、消費者のこと、2 つの立場から考えて決めていますね。他の班は、どうですか？</p> <p>C 米のおいしさを載せようと考えました。しまんと農法米は、四万十川の水を使って、おいしい米を作っているし、おいしいお米を買いたい消費者もいるからです。</p> <p>T チラシに載せる内容を生産者、消費者の立場で考えて決めたものになっていますか？もう一度、班で見直してみましょう。</p> <p>(グループ)</p> <p>C 生産者の方しか考えてなかったな。消費者はどんなお米を求めているのかももう一度考えてみよう。</p>	<p>T 班で決めたチラシに載せる 3 つは、JA の方の願いであるお米を PR するものになりそうですか？次の時間には、実際に内容を自分たちの言葉で書いていきましょう。</p> <p>T 自分の考えや友達の考えを聞いて、気付いたことや学んだことはありますか？今日の学習の振り返りをしましょう。</p> <p>C 米を PR するチラシを作るには、生産者だけでなく、消費者のことを考えて内容を入れることが必要だと分かりました。</p> <p>C 販売者として、生産者の工夫や思いと消費者の求めることの両方を考えた内容にしないといけないと分かりました。</p>
<p>〔指導上の留意点〕</p>	<p>〔指導上の留意点〕</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでの学習の足跡を掲示しておき、振り返って考えられるようにする。 生産者の立場だけにならないよういろいろな立場から考えることを助言する。 	<p>〔指導上の留意点〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 決まった 3 つの内容を短冊に書いておくようにする。 生産者の立場だけになっていないか全体で共有し、再度グループで話し合わせるようにする。 	<p>〔指導上の留意点〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の考えが友達の考えを聞いて変わった点や話し合いで気付いた点を振り返るようにする。

・学習したことを基に消費者、生産者、販売者などの立場から、これからの米づくりの発展に向けたチラシの内容について考えようとしている。(発言・付箋)【主②】